

安住寺だより



禅の心

第145号

発行 安住寺 (年4回発行)  
臨濟宗南禅寺派  
大分県杵築市大字南杵築379  
〒873-0002 TEL0978-62-2680  
URL <http://www/anjuuji.jp/>  
編集 矢野明玄 2・3頁  
矢野玄德 1・4頁

謹賀新年

檀信徒の皆様には、無事に新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。倍旧のご法愛をお願い申し上げます。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

平成二十六年歳旦



代表責任	矢野明玄
役員住職	矢野明玄
責任役員	矢野玄德
責任役員	川上浩
総代	平野芳彦
総代	植木文一郎
総代	清末静男
総代	川野省三
総代	中村文三
総代	西正文
総代	松本文次
合掌会長	是久弘子



「轉不倒意脚」転んで倒れず足も無し  
村上天心筆

第十四世玄道和尚五十回忌  
大般若・初観音講  
一月十七(金) 十時より

本年は、先々代の玄道和尚五十回忌に当たりますので、法要を執り行います。是非お参り下さい。

玄道和尚は、明治四十年住職就任以来、毎年のように伽藍や境内の整備を行っています。山門を始め書院、開山堂、天心堂、位牌堂は師の代に建設されたものです。最初の仕事は、長昌寺との境界を定める石垣を築きました。特筆すべきは、天心居士との邂逅により、開山・開基の木像や襖絵、多くの仏画を寺に遺したことです。寺を別格地に相応しい伽藍を整備をしたのが玄道和尚です。

和尚は、昭和四十年一月二十七日に遷化しました。その十日前には、災禍により本堂まで消失しました。葬儀は、焼け焦げた柱に晒を巻き屋根の無い本堂で執り行いました。檀信徒の皆様と共に亡き師を偲びたいと存じます。観音講は、法要の後、食事の前に観音堂で行います。

除夜の鐘を撞き、初詣をして「今年こそ良い年でありますように」と願ったことと思います。しかし、自然は非情です。思い通りにならないのが人生でもあります。

十善の道を歩む

かかる憂目のあるゆえにひたすら菩提を願うべし  
弘誓の願を身につけて  
忍辱精進怠らず  
布施や愛語にこそろざし  
十善の道歩みつつ  
他己をも自己と覚るならば  
これぞ菩薩の浄土なり

菩提和讃の一節です。(教本36頁)

前号で「成仏とは菩薩道に生きる」と述べました。菩提和讃では、十善の道に励めと論じています。人間には、身・口・意の三業(さんごう)行(い)があります。身には、殺生・盗み邪淫の三つ。口には、偽り・ざれごと汚いのしり・二枚舌の四つ。意には貪欲・怒り・愚痴の三つ。合せて十になります。いわゆる十悪業です。十戒とも言います。この悪業をなさない生き方が十善の道なのです。  
更に、自分と他人の区別をしない世界こそが「菩薩の浄土なり」と教えてくれています。願いだけに留まらず、日々精進を続けて行きたいものです。

## 新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

平成二十六年甲午の新春を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

平素は、総代様、地区世話人様、合掌会役員様をはじめ、檀信徒の皆様方には、安住寺護持にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。



私事ではありますが、当年不惑を迎えることとなります。「迷わず」の境地には至りませんが、社会生活をし、子育てをしていく上でも、選択に迫られます。迷い多き日常を「迷っている暇はない」の覚悟で日々過ごしていきたいと、心新たにしているところでもあります。

さて、昨年も国内外で大雨や

台風による自然災害が起こり、猛威を振るいました。伊豆大島の被害、フィリピンの被害、たくさんの方が犠牲になりました。改めて、ご冥福をお祈りするとともに、被災されている方々へ、お見舞いを申し上げます。

東日本の震災後、このような自然災害を垣間見ると、自然の脅威と、人間の小ささを、以前より強く感じるようになりました。自然災害は、畏敬の念の薄れた私たちへ、自然が警告しているようにも感じます。

そのフィリピン台風が直撃した四日後、十一月十二日に小泉純一郎元首相が「原発即ゼロ」の記者会見をしたことを思い出します。

政治が決断し、知恵のある人がいい案を出す。そして、再生エネルギーへと、転換していった欲しい。解決しない核廃棄物の問題を先送りすることは誰も望んではいない。私を含め、多くの国民の願いが届くことを願うばかりです。

自然災害や原発問題は、過去

の事ではなく、現在進行の問題ばかりであります。どのようなすれば解決できるのでしょうか。私は、人が自然を敬い、神仏を敬う、互いを敬う心を取り戻すことが、解決のヒントではないかと感じています。

新年の色紙には、人を自然を慈しみ、敬愛・畏敬の念を新たにしたいとの願いを込め「慈敬あらたなり」と書きました。



人間万事塞翁が馬。物事の禍福はどうなっただけでゆくかわかりませんが、平成二十六年甲午の一年が、後に福をもたらすような一年となるとともに、檀信徒の皆様にも、幸多い一年となりますようお祈り申し上げます。何卒本年も宜しくお願いいたします。

明玄合掌

## 小猿が珍入!?

安住寺収蔵庫に二匹の小猿が迷い込んだ。

ガタガタガタ!!

足元がおぼつかないせいか、サルも階段から落ちる。

一瞬間を置き、小猿の泣き声が……

いや、よく聞けば、人の子の泣き声。慌てて、嫁も、参拝の女性も駆け寄る。

そこに横たわるのは、双子の兄玄武。

十六段の鉄製の階段を、豪快に転げ落ちた玄武だが、嫁に抱えられ泣き止んだ顔には、僅かに擦り傷があるのみ。その目には、勇ましさをう感じた。その名の通り、将に武者!であった。



参れんけど、双子の顔を新聞で見せちゃよくれと、心配して下さるおばあちゃんが居ます。ありがたいことです。

# 宇和島・西江寺閻魔王

ご案内のように本年は、安住寺第十四世、玄道和尚の五十回忌に当たります。

玄道和尚と邂逅し安住寺に多くの作品を残された、村上天心居士は、宇和島出身であります。宇和島にも村上天心居士と縁があり、閻魔王木彫坐像（十王像）、閻魔王王画、また地獄極楽絵図などの作品が遺る、臨済宗妙心寺派・西江寺があります。



かねてより、宇和島を訪ねてみたいと思っておりましたら、昨年十一月に、修行同山の和尚の集まりで宇和島を訪ねる機会を得ました。

急なお願いにもかかわらず、西江寺和尚様の説明のもと、村上天心居士の作品を見せていただくことも出来ました。



西江寺は通称「えんま様」といわれ、貞治四年（一三六五）

京都東福寺開山聖一国師の法孫悟庵徹和尚を開山とし、現在の地には、寛永二年（一六二五）中興開山の堂和尚の代に、初代宇和島藩主・伊達秀宗によって移されたといわれました。

さて、写真の閻魔王木彫坐像を中心とした十王は、日本における四十九日までの中陰供養と、深く結びついています。

インドでは、中陰・中有のことをアンタラー・バヴァといい、死の瞬間「死有」から次の生を受けるまでの期間のことで、これが仏教思想に取り込まれた。

これは、お釈迦様の死後九百年の時、世親の書いた「説一切

有部阿毘達磨俱舍論」に出てきます。それによれば、

「中有の期間は一期が七日で、最大で七回。つまり四十九日までの間に次の生の場所が決まる。そこで亡くなった者の縁者が集まり、四十九日までの七日ごとに追善供養をし功徳を回向し次の生がよりよいものとなるように願う。この期間が中陰の期間である。」

（アジア人のみた靈魂の行方」梶村昇 大東出版社）

この中有の思想が、仏教と共に中国へと伝わり、道教の影響を受け『閻魔王授記四衆逆修生七往生浄土経』となり、日本に伝わってからは、『地藏菩薩発心因縁十王経』となった。



その五番目、五七日に当たる王が、天心居士の像と画を見ていただければわかる、怖い顔を

した閻魔王であります。

この閻魔王を中心とした、十王により、死者は七日ごとに裁きを受けることとなる。

日本の追善供養は、七回忌・十三回忌・三十三回忌などを加え、十三仏信仰となり、寺請制度の影響から更なる追善供養も加わった、現在の供養のかたちになっている。

西江寺・天心居士の作品紹介が、思わぬ再勉強となりました。まだまだ色々書きたいのですが、今回は紙面の都合で、追善の忌日と十王、その本地仏を紹介して次号に続きとさせていただきます。

初七日	秦広王	不動明王
二七日	初江王	釈迦如来
三七日	宗帝王	文殊菩薩
四七日	五官王	普賢菩薩
五七日	閻魔王	地藏菩薩
六七日	変成王	弥勒菩薩
七七日	泰山王	薬師如来
百か日	平等王	観音菩薩
一周忌	都市王	勢至菩薩
三回忌	五道転輪王	阿弥陀如来

次号に地藏の話や、地獄の話：

### 年回忌表

平成二十六年

年回忌仏事は、故人を偲び、敬い、つながる「いのち」を再確認する意義深い行事です。兄弟や親戚との絆を深める場面に致しましょう。

### 年回忌・没年

一周忌・平成二十五年
三回忌・平成二十四年
七回忌・平成二十年
十三回忌・平成十四年
十七回忌・平成十年
二十五回忌・平成二年
三十三回忌・昭和五十七年
五十回忌・昭和四十年



### 色紙プレゼント

廣石碩田先生より頂戴しました。ご希望の方はお申込み下さい。



2013/11/12

### 南禅寺・伊勢神宮参拝

十一月十二日の南禅寺開山毎歳忌に合せ、閑栖和尚の引卒で伊勢神宮にも参拝しました。紅葉には少し早いかなどという頃でしたが、開山大明国師の法要に参拝し、管長さまや大勢の和尚方、末寺の檀信徒二百数十名と一緒に精進料理も頂きました。

伊勢では、真新しい桧造りの外宮・内宮の他、朝熊岳の金剛証寺にも参拝しました。

金剛証寺では、柱より大きな卒塔婆に皆ビツクリしていました。



### 25年11月23日 バザー

第十七回目のチャリティバザーが開催されました。今回も会員持ち寄りの品物が格安で販売され、午前中で店仕舞になりました。時節柄ですが、回を重ねる毎に品物が少なくなりまして、それでもビツクリする程の掘り出し物があつたとかで、両手に持てない程買った方も居られました。経費を差し引いた売り上げ金は、十二万八千五百九十円で半額を市社協へ寄付予定です。

### 合掌会行事

隔年で実施しています

### 奉仕作業

十一月二十八日は、奉仕作業ということで、会員二十五名がお寺のお堂を掃除しました。お勤めを休んでの方も居られました。ご苦労さまでした。



2013/11/23

バザーの様子です 好天に恵まれ 賑わいました

### 行事予定

- 一月三日 役員年始会
  - 一月七日 独秀流御詠歌
  - 一月十一日 早朝坐禅会
  - 一月十七日 五十回忌・大般若
  - 一月二十一日 写経・写仏の会
  - 二月七日 独秀流御詠歌
  - 二月十七日 御詠歌・観音講
  - 二月二十一日 写経・写仏の会
  - 三月七日 独秀流御詠歌
  - 三月十七日 御詠歌・観音講
  - 三月二十日 写経・写仏の会
- 早朝坐禅会は、第二・第四土曜日の午前六時半からです。どなたでも参加できます。また、都合により日程が変更することもあります。